

ALL JR WORKERS

2005年反グローバルズムJR春闘

『連帯の再創造』一歩前進

定昇の確保と諸要求を勝ち取る！

“ALL JR WORKERS”を合言葉に、定昇の確保とベア1,500円の統一要求（労連は賃金カーブ維持プラス500円要求など）を掲げ闘いを展開している05JR春闘は、これまでにJR北海道労組を皮切りに、JR西労、JR九州ユニオン、JR貨物労組、JR東労組、システム労が妥結（4月5日現在）しています。また、労連では、日本運輸倉庫労組が定昇のほか55歳以上の労働条件や結婚での増号俸などをかち取りました。現在、JR東海労が社員運用の変更反対の課題とあわせ、粘り強い交渉を継続しています。

今年の春闘では、景気回復の追い風を受けながらも経営側の「業績は一時金で配分」とする攻撃をはね返し、4年連続のベアゼロを阻止することが最大のポイントでした。しかし、その困難な状況の中でも、早期妥結のみにこだわることなく、定昇をしっかりと確保し、その他の諸手当や待遇改善などを勝ち取りました。とりわけ、JR北海道労組、JR貨物労組では55歳以上の基本給アップという画期的な成果を獲得しました。

また、5連協ではシステム労が先陣を切って定昇確保の成果を勝ち取りました。

いざ、労連各組合の闘いへ！ 激励行動

JR各単組の成果を受ける形で、これから各労連の闘いが本格的に始まります。JR総連は、連合の提唱する中小地場との共闘を追求し、各労連にも激励行動をおこないました。その中で日本運輸倉庫労組は、定昇の確保と55歳以上の基本給アップを勝ち取りました。

しかし、日本の中小各単組の健闘の中にあっても勝組と負組の差は大きく、業績反映は一時金でという経営側の姿勢とあわせ、4年連続のベアゼロが大手単組においても突破できなかったこととあわせて総括が問われます。



日本フレートライナー労組を激励

単組名	JR北海道労組	JR東労組	JR東海労	JR西労	JR九州ユニオン	JR貨物労組	システム労
定昇（額） （率）	5,796円 2.03%	6,606円 1.98%	5,900円 1.98%	4,166円 1.21%	5,509円 1.77%	5,794円 1.96%	（定昇） 1.97%
その他	55歳以上改善	諸手当妥結	夏季手当3.0ヵ月	年間臨給5.62ヵ月		55歳以上1,000円 扶養手当増等	
妥結日	3月17日	3月25日	未妥結	3月23日	3月24日	3月24日	3月24日

ALL JR WORKERSからALL WORKERSへ。残された5連協・労連各組合や中小・地場共闘の仲間たちへの支援・連帯の取り組みを今一度強化し、05春闘の職場・地域からの高揚を勝ち取りましょう！

連合 中小共闘センター集計は昨年を上回る

連合は3月30日の中小共闘情勢報告交流会で第2回賃金妥結状況を発表し、今後の取り組みを確認しました。

第2回集計結果では、中小組合（300名未満）は1,021組合が平均4,324円、1.68%（昨年対比+344円、+0.13%）の回答を引き出しています。

新潮裁判証人尋問 『週刊新潮』の記事は捏造！

JR浦和電車区事件の保釈要求署名を捏造記事で妨害した「週刊新潮」

ろくな取材もせず、警察発表を鵜呑みにする『週刊新潮』宮本太一デスク

JR総連・JR東労組が新潮社の「捏造記事」をめくり、220万円の損害賠償を求めている訴訟の弁論手続が3月23日、東京地裁でおこなわれました。新潮社からは、宮本太一デスク、そしてJR総連から山下書記長とJR東労組から斎藤法対・広報部長がそれぞれ証人審問をおこないました。

この裁判は、新潮社が『週刊新潮(2003年2月27日号)』に、「革マル派幹部の釈放要望書に署名した5人の国会議員」という見出し記事を実名入りで掲載。しかも「浦和事件は革マル派による事件である」とか「JR総連側は自分達が人権侵害を犯している」と断定して掲載したことによるものです。

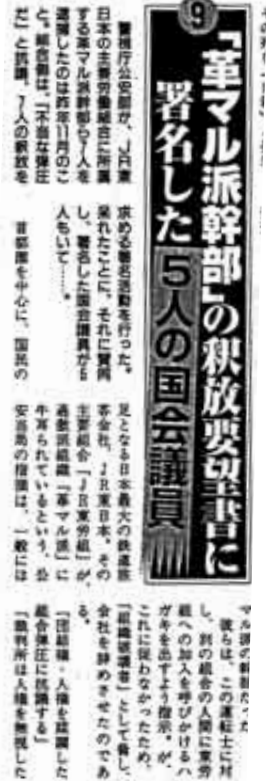
5名の国会議員は、まじめに反弹圧を訴える意味からJR浦和電車区事件で逮捕された7名の保釈を呼びかける署名に賛同していただきました。しかし宮本デスクは、その保釈賛同氏名を記載した広報紙『JR総連』を警察から見せられ、「革マル」記事として捏造したのです。そのため職場の組合員などにより、逮捕された7名の保釈署名を取り組んでいる最中、「新潮の記事を見たから署名できない」と断られるなど、反弹圧の闘いに大きな支障となりました。

公判では、被告側の宮本デスクは脂汗を流しつつ、しどろもどろな証言をおこないました。証言では「革マル」との断定を警察による事件の「公式発表」とか、「国会で指摘があ

る」と繰り返し、情報入手の警察官や担当記者の名前を隠匿。また、電話で断られただけで取材をあきらめたのは何故かと裁判官にも問い詰められました。このように、ろくな取材もせず、警察からの資料や情報提供をそのまま「記事」にし、JR総連＝革マルという図式で捏造記事を書いた背景が明らかになりました。

また、山下・斎藤両証人からは、事件の真相はでっち上げであり、捏造記事によって保釈の運動を妨害されたことを「週刊新潮の記事は悪質極まりなく迷惑だ」と堂々と証言しました。私たちは、ILO勧告をはじめ東京駅事件の不起訴、警視総監への日弁連の「警告書」など、公安警察による弾圧を着実に跳ね返しています。新潮裁判は今後、最終弁論入り、夏にも判決が下されます。

問題の週刊新潮記事



ジャーナリストの山口正紀さんは『週刊金曜日』に次のように記述しています。

「事件を捜査するのではなく、事件を作る。それが日本の公安警察の“仕事”だ。目的は、時の政治権力維持に邪魔な勢力の排除、もしくは「国民の不安」を煽ること。警察活動を監視するのではなく、警察活動を広報する。それが日本の大手メディアの公安報道だ。目的は、特ダネをもらうこと?... (略) ...」

まさに、この『週刊新潮』裁判に当てはまるのではないのでしょうか。

乗務停止を許さない！

JR東海労

広瀬哲也さん

組合員

JR東海を 提訴

JR東海で、些細な理由から乗務を外されたJR東海労組合の広瀬哲也さんが3月29日、会社を相手取り、地位保全と損害賠償を求める裁判を東京地裁におこしました。広瀬さんは「社員証」の一時紛失を理由に、会社から『状況報告書』や『顔末書』記述を強制されたことを拒否。会社はこのことで運転士業務を外し、車両を検査する仕事に配転したのです。

これまでもJR東海・新幹線職場では35名ものJR東海労組合員のみ集中して乗務から外されたり、組合員のほぼ3人に1人の割合でボーナスが減額されるという異常な差別待遇を受けています。

JR東海労は、会社への申し入れや、団体交渉をおこなって問題を指摘し歯止めをかけていますが、会社は少数派となっ

た JR 東海 労を壊滅さ

せるかのように矢継ぎ早に攻撃を仕掛けています。さらに4月から実施される社員運用の「制度変更」により、ますます差別的な配転も予測されます。

今回の訴訟は、そうした多くの差別を受けているJR東海労の組合員の代表訴訟として、広瀬さんが勇気を持って暗く物言えぬ職場から会社に向かったことに大きな意味を持ちます。

JR東海労新幹線地方本部は訴訟同日、「裁判勝利決起集会」を開催。これまでのボーナスカット訴訟とあわせ、決意新たに裁判勝利に向けて意気を上げました。



~ニッポンを知る・考える催し~

平和憲法が破壊される!?

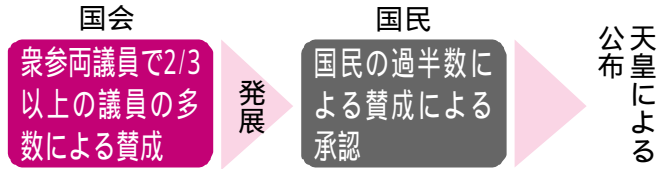
「憲法改正国民投票法案」を問う集会

4月15日(金) 13:30~16:30
憲政記念館

地下鉄 丸ノ内線・千代田線 国会議事堂前駅下車徒歩7分
地下鉄 有楽町線・半蔵門線・南北線 永田町駅下車徒歩5分
参加費 700円 どなたでも参加できます。
内容 各政党議員からの発言 円より子氏(参議院議員・民主党) 小池晃氏(参議院議員・共産党) 土井たか子氏(衆議院議員・社会民主党) 系数 慶子氏(参議院議員・無所属) 他
主催 新ガイドラインに反対し、平和憲法をまもる市民と団体の会

改憲案の国会発議と国民投票の手続きを定める「国会法改正案」と「憲法改正国民投票法案」は、その内容を国民にほとんど知らせることなく準備がすすめられてい

憲法改正までの手続き



ます。早ければ今国会中にも提出、成立させることで自・公与党が合意しています。

改憲の国民投票は、国民の意志を反映させるものとして支持する人もいますが、この法案は、改憲派に有利な規定や条件を盛り込み、平和憲法の破壊につながるものが懸念されています。

4月15日、この「国民投票法案」を問う集会が東京・千代田の憲政記念館において開催されます。集会では各政党議員が発言し、その中身や是非について意見交換をおこないます。

戦争と平和をテーマに

ドキュメンタリー映画6作品を上映!

4月16日(土) 第2回東京平和映画祭が東京代々木・国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催されます。上映される6作品は、戦争と平和をテーマにしたドキュメンタリー。旧日本軍による毒ガス被害・搾取され続ける沖縄の知られざる姿・911事件の検証など、報道されることのない真実がスクリーンから映し出されます。

一日鑑賞券：前売り2,500円(当日3,000円)
全席出入り自由。入れ替えなし。

詳細は東京平和映画祭ホームページをご覧ください。
<http://www.peacefilm.net/>

第2回 The 2nd Tokyo Peace Film Festival

東京平和映画祭

タイムスケジュール

- 10:05~ 『にがい涙の大地から』 海南友子監督
- 11:49~ 『教えられなかった戦争~沖縄編』 高岩仁監督
- 15:13~ 『憲法の危機-陰の政府』(『テロリストは誰?』より)
日本語版企画: グローバルピースキャンペーン
- 15:39~ 『911ボーイングを捜せ!』
日本語版企画: グローバルピースキャンペーン
- 16:46~ 『アボン・小さい家 ~地球で生きるために~』 今泉光司監督
- 19:16~ 『AMANDOLA! アマンドラ! 希望の歌』 リー・ハーシュ監督

男女平等の草案者

ベアテ・シロタ・ゴードンさん来日講演

憲法改正論議が高まる中、日本国憲法に男女平等をもちこんだ元GHQ職員ベアテ・シロタ・ゴードンさん(81)が、4月18日東京新宿にて「平和憲法制定の原点」と題した講演を行います。

4月18日(月) 13:30~16:00
婦選会館(JR新宿駅より徒歩7分・小田急南新宿駅より徒歩3分)
参加費 1,000円 どなたでも参加できます。
主催 七婦人団体議会活動連絡委員会
協賛 憲法9条 世界へ未来へ連絡会(9条連)ほか



映画「ベアテの贈りもの」
2005年5月岩波ホールにて公開!

ベアテさんの半生と戦後の日本女性史たどる映画です

アフガンチーム活動報告

日本からも
アッサラーム・ア・レイコム

第24回

JVC・谷山夫妻が帰国、アフガン現地報告

NPO法人・JVC（日本国際ボランティアセンター）アフガン現地代表の谷山博史さんと由子さんご夫妻は、日本に帰国間もない3月15日、「アフガニスタン帰国報告会」を東京・目黒さつき会館でおこないました。

谷山夫妻からは、タリバン政権崩壊後3年目となったアフガニスタンの政治・治安状況、そして支援活動の現状について熱く語られました。

危険なアメリカによる「押し付け」医薬品配布

今アフガンでは、アメリカによる空爆以降、国際的な支援での「復興」が進められています。しかし、アメリカ軍がJVCのクリニックに武装した装甲車やジープで乗り付け、一方的に占拠するなど事態も発生しています。その上で診察を行わず、まるで食料を配給するように医薬品を配布するなどの行為をおこないました。現地クリニックの院長は、「抗生物質などは、妊産婦が飲むと危険であるのに、何の説明も無しに配布していた。たまりかねて抗議すると、それだけは聞いてくれた」と話していたなど、米軍による押し付け支援の実態の一端が生々しく報告されました。



ジギ村と日本の小学生による「文通」の橋渡し

ジギ村に完成した小学校の生徒と、日本の小学生との文通の手助けをしているのもJVCの運動のひとつです。谷山由子さんは、子供たちからの手紙を翻訳し、文通の橋渡しをしています。日本の小学生たちが自分たちの書いた手紙に返事が来たことにびっくりし、募金活動で支援をはじめなど、心温まる活動の数々が紹介されました。また、ジギ村の平和を願う子供の詩も紹介されました。

JR総連は、アフガンでの支援のむずかしさに葛藤しながらも、諦めず、地道な支援活動を続けているJVCに対し、これからも連帯と支援を続けていきます。

アフガンへの手紙



日本の子どもたちに届いた「詩手紙」

アフガンから届いた返事



【ジギ村ナズィアちゃんの詩手紙(訳)】

私の名前はナズィアです。
私は7年生です。
日本の姉妹のみなさんへのメッセージを詩にしてみました。

私がほしいのは、
銃ではなくペンの力
平和についてさまざまなことを知りたい
戦争は私たちの国を破壊しつくした
私がほしいのは
平和について考えるための時間
壊すことは簡単だけど つくるのはむずかしいだから
私がほしいのは 立ち上がるための時間
新しい世代のための 神の教え
私たちの思いが置いてきばりにならないように
私たちがほしいのは 準備するための時間

日本の生徒のみなさん

アッサラーム・ア・レイコム

こんにちは、みなさんお元気ですか？私たちは元気です。みなさんからのメッセージを受け取りました。ありがとうございます。メッセージの中に私たちの暮らしがとても厳しい状況にあると書かれていましたが、私たちも国は確かにまだまだいろいろな困難を抱えていて、私たちもそれを大変だと感じています。どうぞ、私たちを支えて下さい。

シャッナッス・マラライ・ベリシタ・
ジャミラ・ハティラ
(5人より)



【個人情報保護と利用について】

JR総連は、労働組合活動及び総合共済活動のために、組合員・OBの個人情報を保有しています。この個人情報は、法律に基づいて適切に管理運営し、本人の求めに応じて原則として開示し、また訂正します。さらに福祉活動の推進のために、労働金庫・全労災・JR総連賛助団体との間で個人情報の共同利用・業務委託を行います。ご不明の点につきましては、お問い合わせください。組合員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。詳しい内容は、JR総連のホームページ（http://www.jr-souren.com/）をご覧ください。